

イスパニカ 12 (1967)
p. 57

日本イスパニヤ語学会の活動(7)

第12回大会(小樽商科大学, 昭和41年9月3日) (1966)

研究発表

1. 原 誠 東京外国語大学

「スペイン語教授法上からみたスペイン語音声の一大特徴」

発表者は昭和39年上智大学における第10回大会において Malmberg のスペイン語 /... | CV | CV | CV... / 説を紹介したが, 教室で, スペイン語の発音を教えていると, 彼の | CV | 説をも包含するもっと大きな音声的特徴が存在することに気がついた。スペイン語の発音を教授する際この特徴を念頭において行なうと大変便利と思われるので, 今回発表することにした。

2. 橋本一郎 山梨学院大

「コルネイユに対するカストロの影響」

コルネイユの名声を確立した「ル・シッド」はカストロの「シッドの青春時代」を模倣した作品であるが, 今日カストロの名は, コルネイユの栄光のかげにかくされている。発表者はコルネイユが原作の詩句をほとんど取入れながら, いかにもそれをフランス化したかを調べ, 不当に無視されている原作者カストロの作品に正しい評価をしてみる。

3. 島岡茂 早稲田大学

「若干の不定詞構文の分析」

昨秋(1965)マドリーで催された国際ロマンス言語文献学会で

E. Alarcos Llorach 教授が発表したスペイン語の Morfosintaxis

イスパニカ 44 (2006) p. 143-148
第46回大会(2000)以降復活 ←

-57-

イスパニカ 13 (1968)以降
大会に7回2の報告とされる。

(形態統辞)部門の一研究を骨子に自分なりの解釈を加える。

第12回大会(1966)続
イスパニカ 12 (1967) p. 58